

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																												
専門学校 山形V. カレッジ	昭和60年12月2日	山本 絵里子	〒990-0834 山形県山形市清住町一丁目4番41号 (電話) 023-644-1122																												
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																												
学校法人山本学園	昭和26年11月1日	山本 絵里子	〒990-0834 山形県山形市清住町一丁目4番40号 (電話) 023-643-0358																												
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																											
文化・教養	文化・教養関係専門課程	ファッション・プロモート科	平成30年文部科学省告示第31号	—																											
学科の目的	1年次は伝統や文化、デザインの概念、デッサン力、色彩感覚等の表現方法の基礎を学び、「観る 描く 話す」習慣を身に付ける。2年次には幅広い知識とより高度な専門知識・技術を習得し多彩なビジネス分野で活躍できる人材を育成することを目的とする。																														
認定年月日	平成31年3月5日																														
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																								
2年	昼間	64単位	46単位	0単位	32単位	0単位	0単位																								
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																										
4人	3人	0人	1人	13人	14人																										
学期制度	■前期: 4月1日～9月30日 ■後期: 10月1日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 期末試験、課題、レポート、出席率、授業態度等を点数化し、ABCDの4段階評価を行っている。																											
長期休み	■学年始: 4月 1日～4月 4日 ■夏季: 8月 1日～9月 4日 ■冬季: 12月24日～1月 9日 ■学年末: 2月 1日～3月31日		卒業・進級条件	進級条件 32単位以上取得 卒業条件 64単位以上取得																											
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 学生生活、学習状況に応じて、適宜個別面談、保護者面談を実施する。		課外活動	■課外活動の種類 学生会による企画運営・ボランティア等 ■サークル活動: 無																											
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(令和3年度卒業生) 和裁会社 ■就職指導内容 1週2時間の就職指導時間(ビジネス実務)を設定する他、キャリア講座、職業講話、マナー講座などを実施する。 ■卒業生数 1 人 ■就職希望者数 1 人 ■就職者数 1 人 ■就職率 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 100 % ■その他 ・進学者数: 0人 (令和3年度卒業生に関する令和4年5月1日時点の情報)		主な学修成果(資格・検定等)※3	<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>和裁技術中級</td> <td>③</td> <td>1人</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>きもの着付け講師</td> <td>③</td> <td>1人</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>ファッション販売能力検定中級</td> <td>③</td> <td>1人</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>洋裁技術上級</td> <td>③</td> <td>1人</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>カラーコーディネーター検定2級</td> <td>③</td> <td>1人</td> <td>1人</td> </tr> </tbody> </table> <p>※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)</p> <p>■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等</p>				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	和裁技術中級	③	1人	1人	きもの着付け講師	③	1人	1人	ファッション販売能力検定中級	③	1人	1人	洋裁技術上級	③	1人	1人	カラーコーディネーター検定2級	③	1人	1人
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																												
和裁技術中級	③	1人	1人																												
きもの着付け講師	③	1人	1人																												
ファッション販売能力検定中級	③	1人	1人																												
洋裁技術上級	③	1人	1人																												
カラーコーディネーター検定2級	③	1人	1人																												
中途退学の現状	■中途退学者 1名 令和3年4月1日時点において、在学者4名(令和3年4月1日入学者を含む) 令和4年3月31日時点において、在学者3名(令和4年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更 ■中退防止・中退者支援のための取組 学校生活、出席状況に目を配り、個別の面談を設ける他、保護者との相談も実施している。		■中退率 25%																												
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 経済的に就学困難な学生に対し、授業料の減免を行う。 ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象																														
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無																														
当該学科のホームページURL	https://www.ycb.ac.jp																														

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除いたものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まれません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

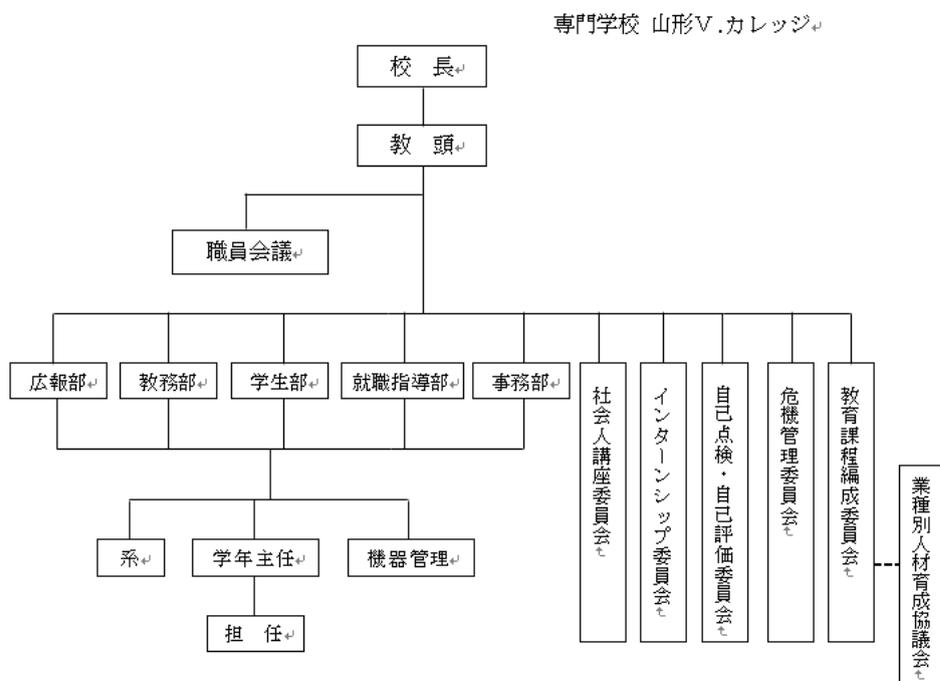
(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

教育課程編成委員会を通し、現在当地域で必要とされている技能・知識・人物像について参加企業からの意見を受けカリキュラム及び授業内容の編成に活かす。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

学校運営組織図



(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和4年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
鈴木 敬尚	株式会社スズキ通商 代表取締役	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日(2年)	①
森 昭宏	有限会社マックベース 社長	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日(2年)	③
早坂 実	株式会社サンセットスタジオ 代表取締役	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日(2年)	③
岸 裕紀	株式会社ウィル 代表取締役社長	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日(2年)	③
武田 隆平	弘栄設備工業株式会社 常務取締役	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日(2年)	③
半澤 和仁	東北電化工業株式会社 総務部長兼人事労務課長	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日(2年)	③
安孫子 正樹	山形建築組合 会長 有限会社 安孫子建設 代表取締役	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日(2年)	③
高野 邦夫	山形アパレル工業協同組合 理事長 株式会社 サンスタイル 代表取締役	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日(2年)	③
鈴木 静江	学校法人山本学園竹田和裁研究所 事務長	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日(2年)	③
大久保 章宏	株式会社大久保硝子店 代表取締役社長	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日(2年)	③
佐藤 一	山形小木医科器械株式会社 代表取締役社長	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日(2年)	③
山本 絵里子	学校法人山本学園 副理事長 竹田幼稚園・竹田西部幼稚園 園長 竹田和裁研究所 縫製事業部長 専門学校 山形V.カレッジ 校長	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日(2年)	
八矢 由子	専門学校山形V.カレッジ 教頭	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日(2年)	
堀川 栄美子	専門学校山形V.カレッジ教員 ファッション・ビジネス系主任	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日(2年)	

後藤清彦	専門学校 山形V.カレッジ教員 工業系主任	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日(2 年)	
江口優一郎	専門学校 山形V.カレッジ教員 (学校内教育課程編成委員)	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日(2 年)	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回

(開催日時(実績))

第1回 令和3年10月21日 16:00～17:00

第2回 令和4年 2月19日 16:30～17:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

毎年8月に「業種別企業懇談会」を行い、必要な人材やカリキュラムについて業種別に話し合った結果は、教育課程編成委員会にも報告され審議されている。委員会において、組織人としてのコミュニケーション力に問題が多いと伺い、授業科目の中にグループワークを多く取り入れるように改善した。授業以外の場面でも、他者との関係づくりを実践させ学生の資質を高めていく。

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

現職の業界人を講師とし起用し企業で通用する知識や技術を身に付ける。また、実習を通し仕事に対する意識、姿勢も身に付ける。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

1、授業科目「和服構成・製作1・2(基礎・応用)」

授業においては企業での実習を取り入れ、裁断、柄あわせ、標付け、縫い方など和裁技術を習得する授業の実施。学習成果は、企業側が出席状況、課題提出、授業意欲を総合して評価する。

2、授業科目「デッサン」 授業においては講師を招き、デッサンなどを通して形を正確に捉える力が身につく授業の実施。学習成果は、企業側が出席状況、課題提出、授業意欲を総合して評価する。

3、授業科目「洋服構成・製作2(基礎・応用)」

授業の中に企業での実習を取り入れ、洋服に関する基礎知識を習得する授業の実施。学習成果は、企業側が出席状況、課題提出、授業意欲を総合して評価する。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
和服構成・制作1・2 (基礎・応用)	校外学習を取り入れ、単衣長着と袷長着の違いや着物の格などTPOについて理論・実習を深め理解する。	竹田和裁研究所
洋服構成・制作1・2 (基礎・応用)	洋服製作に関わる知識・技術・技能等の基本的な要点を、実技を学ぶ。また、高度な洋裁の技術を学習し、製図、裁断、縫製の専門技術を習得する。	株式会社 雅山
デッサン	デッサンを通して立体の把握、プロポーションの比例の仕組みを目で感じ取り、手で表現することを目指す。また、立体造形では粘土を用いてモチーフを自分なりのオリジナリティーあふれる表現ができるようにする。	山形県洋裁技能協会

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

①就業規則

教職員はその職務遂行のため、自発的に研修に励み、かつ、学園又は各種団体等の行う研修をうけるなど、資質の向上に努めなければならない。

②専門学校 山形

V. カレッジ教員研修規程に則り研修を受講する。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名 補正力を身につけて服のレベルを上げよう (日本モデリスト協会)

期間・11月14日(佐川 輝夫氏)

内容：既製服を作る上で仕立屋の技術を元に生じる問題点や補正方法について

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名 令和3年度 公開セミナー （連携企業等：山形県私立学校総連合会）
 期間：令和4年1月21日 対象：山形県私立学校・幼稚園教職員
 内容：専修学校および各種学校に関する最新の情勢について
 「SDGsへの理解を深めよう～SDGsの意義と実践」

(3) 研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名 技能五輪ものづくり 縫製技術について （連携企業等：山形県洋裁技能協会） 大場氏
 時期：令和4年5月9日
 内容：裁断から縫製 手作業技術について

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名 「ワーキングアドベンチャー（企業人との座談会）」（連携企業等：県内企業20社）
 期間：令和4年8月2日 対象：全教員
 内容：企業トップの方々より、各業界・職種で必要とされる人材像を伺い専門学校での教育内容にどのように取り入れたらよいかを検討する。

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学園が提供する教育サービスに対して、少子化の問題や保護者・地域社会の要求水準の高まりによって、教職員の専門性のみで経営方針を策定することは困難な時代が到来している。地域社会との融合・環境との調和を常に念頭に置き、ときに互いに相矛盾しそうな状況を調整していく必要がある。こうした学園を巡る環境変化の中で、自主的・自律的な学校経営を確立するためには、園児・生徒・学生、保護者、卒業生、地域住民、企業等様々な職種の教職員といった主要ステークホルダー（関係各位）に対する自らのミッション（使命）を明確にする必要がある。学校関係者評価の取組を通じて、教職員や保護者、地域住民等が学校運営について意見交換し、学校の現状や取組を知り課題意識を共有することにより、学校評価をコミュニケーション・ツールとして、保護者・地域住民・企業の学校運営への参画を促進し、共通理解に立ち家庭や地域に支えられる開かれた学園づくりを進めていくことが期待される。さらに、学校評価を軸とした情報の共有と連携協力の促進を通じて、学校・家庭・地域・企業それぞれの教育力が高められていくことが期待できる。学校内外の能力・資源を開発・活用し、学園に関与する人たちのニーズ・ウオンツに適切させ、個々の年齢に応じた適切な学校教育目標を達成していく。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	目標設定、達成状況
(2) 学校運営	取り組みの状況
(3) 教育活動	学校・園の自己評価報告
(4) 学修成果	次年度に向けての改善方策
(5) 学生支援	学校・園の良さと認められる点
(6) 教育環境	学校・園の改善点及び方策
(7) 学生の受入れ募集	取り組みの状況
(8) 財務	決算報告、監査報告
(9) 法令等の遵守	監査報告
(10) 社会貢献・地域貢献	取り組みの状況
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

○企業との連携について

高校生及び専門学校生を対象にワーキングアドベンチャー（企業人との座談会）を開催し、約20社の企業にご協力いただいた。若者と企業人の双方向性によるコミュニケーションスキルの習得と、企業人の生の声を身近に感じ確かな職業理解を促すことが目的で、毎年多くの企業に参加いただいている。また、人材育成協議会を開催し、企業のトップの方との懇談を深め、県内企業との連携の強化が図られている。

○学生募集について

キャリア教育を高め、地元企業とのパイプを強化し就職に強い学校をアピールし学生募集に繋げたい。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和4年5月26日現在

名前	所属	種別
山本 恒雄	山本学園理事長 竹田和裁研究所所長	学園関係者
山本 絵里子	山本学園副理事長 竹田幼稚園園長 竹田西部幼稚園園長	学園関係者

関 義 人	山本学園理事 惺山高等学校校長	学園関係者
大久保 章 宏	山本学園理事 (株)大久保硝子店代表取締役社長	企業等委員
塚 崎 敏	山本学園監事 元山形芸術学園専務理事・校長	地域住民
安孫子 英 彦	山本学園監事 安孫子総合法律事務所弁護士	企業等委員
山 本 幹 雄	山本学園評議員 竹田西部幼稚園副園長 善学亭本部職員 長安 長	学園関係者
川 口 昌 史	山本学園評議員 専門学校山形V.カレッジ同窓会「清山会」会長 (株)C-NET川口ビル 事業部長	企業等委員
伊 藤 淳	山本学園評議員 山本学園本部事務局長兼経理部長	学園関係者
大 沼 義 和	山本学園評議員 山本学園同窓会竹朋会副会長	同窓会
鈴 木 静 江	山本学園評議員 山本学園同窓会竹朋会副会長 山口竹田実業専門学校卒業生	企業等委員・卒業生
波多野 陽 一	山本学園評議員 ピーウィー保育園施設長	学園関係者
松 井 寿 夫	山本学園評議員 惺山高等学校教頭	学園関係者
東海林 真 美	山本学園評議員 竹田西部幼稚園総務主任	学園関係者
八 矢 由 子	山本学園評議員 専門学校山形V. カレッジ教頭	学園関係者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL: <https://www.ycb.ac.jp>

公表時期: 令和5年1月14日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

分かりやすい情報を提供した上で必要な改善を行い、「授業の質保証を担保すること」を基本方針とする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校の概要、目標及び計画
(2) 各学科等の教育	各学科等の教育
(3) 教職員	教職員
(4) キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育・実践的職業教育
(5) 様々な教育活動・教育環境	様々な教育活動・教育環境
(6) 学生の生活支援	学生の生活支援
(7) 学生納付金・修学支援	学生納付金・修学支援
(8) 学校の財務	学校の財務
(9) 学校評価	学校評価
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL: <https://www.ycb.ac.jp>

授業科目等の概要

(文化教養専門課程ファッション・プロモート科)											令和4年度				
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○		デッサン	デッサンを通して立体の把握、プロポーション比例のくみを目で感じ取り、手で表現することを目指す。また、立体造形では粘土を用いてモチーフを自分なりのオリジナリティーあふれる表現をすることをねらう。	1通	60	2			○	○			○	○
2	○		色彩計画1	色が商品の売れ行きに与える影響は大きくなってきている。デジタルコンテンツ等での表現においても色は欠かせない。授業では色の見える仕組み、色の与える心理効果、コーディネートにいたるまで幅広く学習する。	1通	60	2	○			○			○	
3	○		ビジネス実務1	就職活動全般に関する基本的な事項の習得を行い、1年次末には、就職活動への準備を完了させる。	1通	60	4	○			○			○	
4	○		ビジネスマナー	仕事に対する取り組み姿勢や職場とは何かを知る。求職のための履歴書、およびエントリーシートを書くために自己分析、他者分析を行う。また、伝統文化の継承とビジネスに必要な冠婚葬祭、実践トレーニングによりコミュニケーションスキルを獲得し、プレゼンテーションスキルの向上を目指す。また社会常識能力検定の取得を目指す。	1通	60	2	○			○			○	
5	○		茶道	入門レベルの茶道を学習することにより、パーソナリティを磨き、感性を修練する。幼稚園児を向かえ、お茶会を開催しおもてなしと伝統行事について学ぶ。	1通	60	2			○	○				○
6	○		キャリア実習1	外部での就労（アルバイト、インターンシップ、ボランティア）等の体験を通じて、職業意識を高める。	1後	60	2			○	○				
7	○		photoshop1	デジタル作品を手掛けるデザイナーが扱う代表的なペイント系ソフトであるAdobe photoshopの基本的操作を学習する。	1通	60	2			○	○			○	
8		○	フラワーアレンジ1	フラワーアレンジの基本を習得する。またフラワー装飾指導員の方からも美しいラインやフォルムの作り方など、細かい花の扱い方を教わる。	1通	60	2			○	○				○
9		○	ファッションデザイン1	ファッションデザインに必要な基礎、デザイン画として表現することを通して学び、クリエイティブ、かつ実質的なデザイン力を身に付ける。	1通	60	2	○			○				○

10	○	アロマテラピー1	アロマテラピーとは何かを理解し日常生活の質を上げるために香りをどのように活用していったらよいかの基礎を学ぶ。健康学、生理学、科学的特質、心理学等の基礎知識を学ぶ。また、マッサージ（トリートメント）の基礎的技術手法を身につける。	1通	60	2	○			○	○		
11	○	着付1	着物の格やTPOを理論として習得する。着物を美しく着るための補正の方法を学ぶ。着用した後のたたみ方、しまい方、手入れ方法を習得する。	1通	60	2			○	○	○		
12	○	和服構成・製作1(基礎)	和服がいかにして販売されているかを把握し、自らの和服製作にいかしていくことをねらいとする。	1通	60	2	○			○		○	
13	○	和服構成・製作2(基礎)	和服を美しく着るために自分の寸法を知る。手縫いの基本縫い。肌襦袢を仕立てることで各部の縫い方を習得する。	1通	240	8			○	○		○	○
14	○	洋服構成・製作1(基礎)	ファッション販売の知識やマーケティング販売業務、技術等の理論を踏まえ検定の取得を目指す。	1通	60	2	○			○		○	
15	○	洋服構成・製作2(基礎)	ファッションの中心となる洋服がいかにして販売されているかを把握し、自らの洋服製作に生かしていくことをねらいとする。	1通	240	8			○	○		○	○
16	○	植物学1	自然と人間の共生を通し、緑花栽培の役割など幅広く学習する。	1通	60	2	○			○		○	
17	○	グリーンコーディネート1	ガーデン・デザインの基礎を、実習・課題等を織り交ぜながら学習する。実習庭園では理論を踏まえながら、より深い植栽の知識を得る。	1通	120	4			○	○		○	
18	○	ガーデニング製図1	ガーデニングに必要な製図の知識・技術の習得。実際に製図を行いながらガーデニング製図に必要な知識を学習する。また、課題制作により製図技術を習得する。	1通	90	3	○			○		○	
19	○	園芸流通	花卉産業における生産についての知識と顧客ニーズについて学ぶ。また、良いフラワーショップ運営の仕方と取り組み姿勢や職場とは何かを知る。山形花卸市場より節々の取り扱い商品等、インターネットで毎週情報提供いただき実践に役立てる。	1後2後	30	2	○			○		○	
20	○	ハーブ1(栽培・調理)	薬用ハーブの持つ効能・古代と現代のハーブとの相違点を習得。育てて収穫するのに必要な知識を学び、個々のハーブの特徴を理解させる。実際に育てることを経験して、日常の暮らしの中でハーブを幅広く応用できる力を養わせる。	1通	60	2			○	○		○	
21	○	ビジネス実務2	担任・就職指導部による、全体指導・クラス毎指導・個別指導を行い、早期に就職内定を勝ち取る事を目指す。	2通	60	4	○			○		○	

22	○		色彩計画2	色が商品の売れ行きに与える影響は大きくなってきている。デジタルコンテンツ等での表現においても色は欠かせない。授業では色の見える仕組み、色の与える心理効果、コーディネートにいたるまで幅広く学習する。	2通	60	2	○			○		○		
23	○		ファッションデザイン2	ファッションデザインに必要な基礎、デザイン画として表現することを通して学び、クリエイティブ、かつ実質的なデザイン力を身に付ける。	2通	60	2	○			○		○		
24	○		アロマテラピー2	アロマテラピーとは何かを理解し日常生活の質を上げるために香りをどのように活用していったらよいかの基礎を学ぶ。健康学、生理学、科学的特質、心理学等の基礎知識を学ぶ。また、マッサージ（トリートメント）の基礎的技術手法を身につける。	2通	60	2	○			○		○		
25	○		植物学2	植物の生涯の生き方、よりよい植物の成長のため環境の学習や実習と共に植物の成長過程を観察する。	2通	60	2	○			○		○		
26	○		グリーンコーディネート2	ガーデン・デザインの基礎を、実習・課題等を織り交ぜながら学習する。実習庭園では理論を踏まえながら、より深い植栽の知識を得る。	2通	120	4				○	○		○	
27	○		ガーデニング製図2	ガーデニングに必要な製図の知識・技術の習得。製図法に則った図面の作成と、課題制作をする。	2通	90	3	○			○		○		
28	○		ハーブ2(栽培・調理)	薬用ハーブの持つ効能・古代と現代のハーブとの相違点を習得。育てて収穫するのに必要な知識を学び、個々のハーブの特徴を理解させる。実際に育てることを経験して、日常の暮らしの中でハーブを幅広く応用できる力を養わせる。	2通	60	2				○	○		○	
29	○		フラワーアレンジ2	水揚げや基本をマスターしデイリーからフォーマルまで個性ある装飾を学ぶ。	2通	60	2	○			○		○		
30	○		クラフト	きもの、ドレス、フラワー装飾の中で胸元、髪、ドレス、着物の一部などの造花を作る技術を学び、創作したそれぞれの巾を広げる。プライダルブーケのデザインを行い製作する	2通	60	2				○	○		○	
31	○		キャリア実習2	2年次にインターンシップ・ボランティア・アルバイトを経験することにより、自ら考え、自ら行動する力を育むことを目標とする。	2後	60	2				○		○		
32	○		自主研究2	常に広い視野を持ちながら分野に限らず創造性・発展性を養うことを目標に検定受験・研究・開発・政策等を行い各自の就職に活かせる能力を身に付ける。	2通	60	2				○	○		○	
33	○		photoshop2	代表的なペイント系ソフトである「Adobe Photoshop」の基本的な操作を学習するとともに、アプリケーションを使用したデザインワークを行なうことで、現場で生かされる実践的な能力を修得する。	2通	60	2				○	○		○	

34	○	着付2	着付けの基本である補正の理論を学び補正着を製作する。浴衣の自装を習得。長襦袢の着装工程を習得。	2通	60	2				○	○	○		
35	○	和服構成・製作1(応用)	和服を求める消費者ニーズ、満足を得られる和服とは何か、販売心理・顧客とのかかわり方等を理論的に修得させる。	2通	60	2	○				○			○
36	○	和服構成・製作2(応用)	人体観察を経て、被服製作の知識とパターンづくりの基本を習得する。職業用ミシンの扱い方・操作を覚える。	2通	240	8				○		○		○ ○
37	○	洋服構成・製作1(応用)	より感度の高いファッション商品を求める消費者ニーズ、満足を得られる。ファッション商品販売とは何か、知識・技術・情報を提供できる人材になる様に指導する。	2通	60	2	○				○			○
38	○	洋服構成・製作2(応用)	製図、裁断、縫製の基礎技術の習得。技能マスターより、スーツ・ブラウス等の基本実技の指導を受ける。	2通	240	8				○	○			○ ○
39	○	服装史	世界の多様な服装が現代のスタイルに至るまでどの様に変化、発展してきたのかを、各時代の社会状況と照らし合わせながら学ぶ。	1通	60	2	○				○			○
合計					39 科目		3,210単位時間(112 単位)							

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
64単位以上を取得のこと。		1学年の学期区分	2期
		1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。